

<第2分科会>

障害のある幼児児童生徒に対するキャリア教育の実践について ～児童生徒自身の「振り返り」を踏まえた目標設定の実施を通して～

広島県特別支援学校教育研究会第2グループ

～キャリア教育とは～

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、
キャリア発達を促す教育」

※キャリア発達「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実践していく過程」

参考：中央教育審議会（平成23年）：『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』

1. はじめに

本研究グループでは、児童生徒の課題について協議したところ、コミュニケーション力の不足や意思決定能力の不足等が挙げられた。解決方法として、本研究の一昨年度からの成果を踏まえ、「児童生徒の『できた!』を評価する。」「課題解決の場面を設定してそれを児童生徒自らに評価させる。」等の意見が出た。これらを前提として、更に協議を進める中で、評価を基に児童生徒自らが次の目標を設定することで、自身の成長を確認し、目標達成への意欲を引き出すことができるのではないかと考えた。その結果、「振り返り」に基づいて児童生徒が自ら新たな目標を設定する授業実践を行い、キャリア発達の高まりを計ることとした。

2. 仮説の設定

児童生徒が、自身の「振り返り」を踏まえた目標設定をすることで、キャリア発達を促すことができるだろう。

3. 研究の内容及び方法

（方法1）児童生徒の付けたい力の明確化及び授業展開案の作成

①児童生徒の付けたい力の明確化

付けたい力(キャリア発達上の課題)を明らかにするワークシート(A)を作成し、協議を重ね、児童生徒のキャリア発達上の課題を具体化し、付けたい力を整理した。

②授業展開案の作成

授業記録ワークシート1・2(B・C)を作成し、振り返りの肯定的な評価方法や次時の目標設定につなげるための工夫を具体的に考え、設定した。

（方法2）授業における児童生徒の行動観察

キャリア発達を記録するワークシート(D)を作成し、一貫性のある評価ができるようにした。

（検証）児童生徒の変容の比較

ベースライン期と指導期で児童生徒の変容を比較し、検証した。

4. 研究のまとめ

「振り返り」を意識した授業づくりによって

- 「振り返り」を踏まえた新しい目標や活動内容を、児童生徒自身が設定することで、目標達成への意欲を引き出すことができた。
- 活動後の「振り返り」場面では、他者評価や自己評価などの多種・多様な評価により、“自分自身の価値を知る”ことができた。
- 「振り返り」によって、自ら変わろうとする意欲や意識の変化が見られ、「主体的な学習」へとつながった。

成果

課題

- 個や集団など、効果的な評価の方法や評価の場面についてさらに検討が必要である。
- ベースライン期・指導期における児童生徒の実態に合うようにワークシートの改善を行う。